

手賀沼の水で米作りをしている農業者様へ

美しい手賀沼を愛する市民の連合会会長 八鍬 雅子

美しい手賀沼を愛する市民の連合会（以下美手連）は、平成7年12月、湖北座会 星野七郎さん（元手賀沼土地改良区理事長）、星野保さんの呼びかけで、14の団体により結成しました。

現在は、23の団体が加盟して活動をしています。

（我孫子市消費者の会、我孫子青年会議所、我孫子の景観を育てる会、我孫子の文化を守る会、我孫子野鳥を守る会、NOPアルパトロスヨットクラブ、NPOせっけんの街、大津川をきれいにする会、大堀川の水辺をきれいにする会、岡発戸・都部の谷津を愛する会、亀成川を愛する会、沼南手賀沼ボランティア会、手賀沼漁業協同組合、手賀沼水生生物研究会、手賀沼にマシジミとガシヤモクを復活させる会、流山市立博物館友の会、船戸の森の会、ふれあい手賀沼の会、ホームサイエンス倶楽部、自治労我孫子市職員組合、自治労柏市職員組合、自治労鎌ヶ谷市職員組合、自治労流山市職員組合）

手賀沼は今、かつてなかった、特定外来生物ナガエツルノゲイトウに侵入されております。1998年（昭和63年）亀成川流域の田んぼで初めて確認され、2014年（平成26年）には、手賀沼流域全般に広まり爆発的に拡大しています。

ナガエツルノゲイトウとは、ヒユ科のツルノゲイトウ属の多年草植物です。南アメリカ原産で、茎の切片による繁殖が旺盛で、在来の生態系に影響を及ぼします。

（別紙参照）



ナガエツルノゲイトウ被害の先進地である印旛沼流域では機場の排水障害（洪水の恐れ）、農地の耕作被害が出ています。手賀沼流域でも同様な被害が早晚発生することが予測されます。また除草剤による対策は、困難を極めています。除草剤を撒くと、他の雑草を含め全て枯れてから最初に生えてくるのがナガエツルノゲイトウで、たちまち占有されてしまうと専門家の方から聞いています。

手賀沼流域の田んぼにおけるナガエツルノゲイトウによる被害を防ぐためには、その繁殖の実態を知り、その情報を多くの方が共有することが大切と考えます。

美手連では、その一助として稲刈りの終了後、手賀沼流域の水田に繁茂している、ナガエツルノゲイトウの調査活動を下記のとおり行います。

どうぞご理解とご協力をよろしく願いいたします。

記

調査区域： 大津川工区、布湖工区、我湖工区

調査時期： 9月末（稲刈り終了後）から10月末まで

以上

ナガエツルノゲイトウ

ヒユ科に属する南米原産の多年草。河川や水湿地に群生する。茎は中空で横に這うか斜上し、よく分岐して節から根を下ろす。葉は楕円形で縁には細かい鋸歯があり、無柄で対生する。

夏から秋にかけて葉腋に細かい柄を出し、先端に直径 1.5cm ほどの球形の白い花穂を着ける。両性花。種子繁殖を行うとともに、茎の切片による栄養繁殖が極めて盛んで、生長が速い。1989 年に兵庫県で定着が確認され、その後急激に分布を広げた。長期間の乾燥に耐え、耐塩性も強い。外来生物法で特定外来生物に指定され、栽培や移植、販売、譲渡、運搬などは全て禁止されている。



※タカサブロウ (キク科の一年草)

ナガエツルノゲイトウにとっても似た植物で田んぼの畦に生えている。花は小さく白いが、ヒメジヨオンの様な形をしている。茎を折るとナガエツルノゲイトウは中が空洞である。

